

令和2年（1～12月）における火災の状況（確定値）

令和2年中の火災の状況について、1月から12月までの確定値をとりまとめましたので、その概要を公表します。

前年と比較すると、総出火件数、火災による死者数ともに減少しており、直近10年で比較しても最小となっているものの、住宅火災による死者^{*}数、65歳以上の高齢者の占める割合は、ほぼ横ばいとなっています。 ^{*}放火自殺者等を除く。

① 総出火件数は34,691件、前年より2,992件の減少

総出火件数は、34,691件で、前年より2,992件減少(-7.9%)しています。火災種別で見ますと、建物火災が1,638件減少、林野火災が152件減少、車両火災が119件減少、船舶火災が9件増加、航空機火災が1件減少、その他火災が1,091件減少しています。

② 総死者数は1,326人、前年より160人の減少

火災による総死者数は、1,326人で、前年より160人減少(-10.8%)しています。負傷者数は、5,583人で、前年より282人減少(-4.8%)しています。

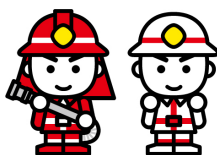
③ 住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数は899人、前年より増減なし

住宅火災による総死者（放火自殺者等を除く。）数は899人で、前年からの増減はありません。このうち65歳以上の高齢者は645人で、前年より17人減少(-2.6%)し、住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数の71.7%を占めています。

④ 出火原因の第1位は「たばこ」、第2位は「たき火」です。

総出火件数の34,691件を出火原因別にみると、「たばこ」3,104件(8.9%)、「たき火」2,824件(8.1%)、「こんろ」2,792件(8.0%)、「放火」2,497件(7.2%)、「火入れ」1,684件(4.9%)の順となっています。また、「放火」及び「放火の疑い」を合わせると4,052件(11.7%)となっています。

詳細は消防庁ホームページをご覧ください。[\(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/statistics/\)](https://www.fdma.go.jp/pressrelease/statistics/)

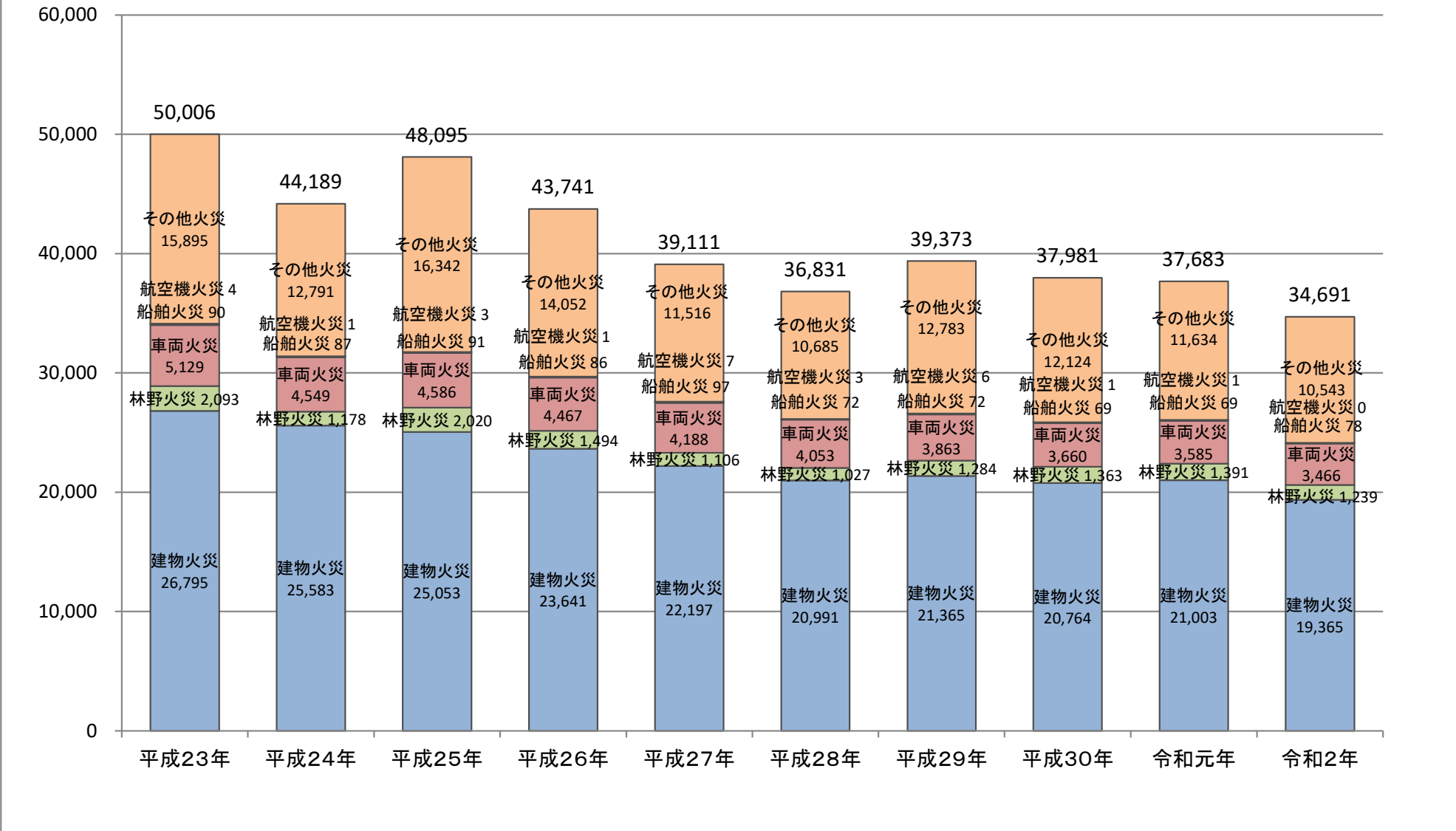


消太

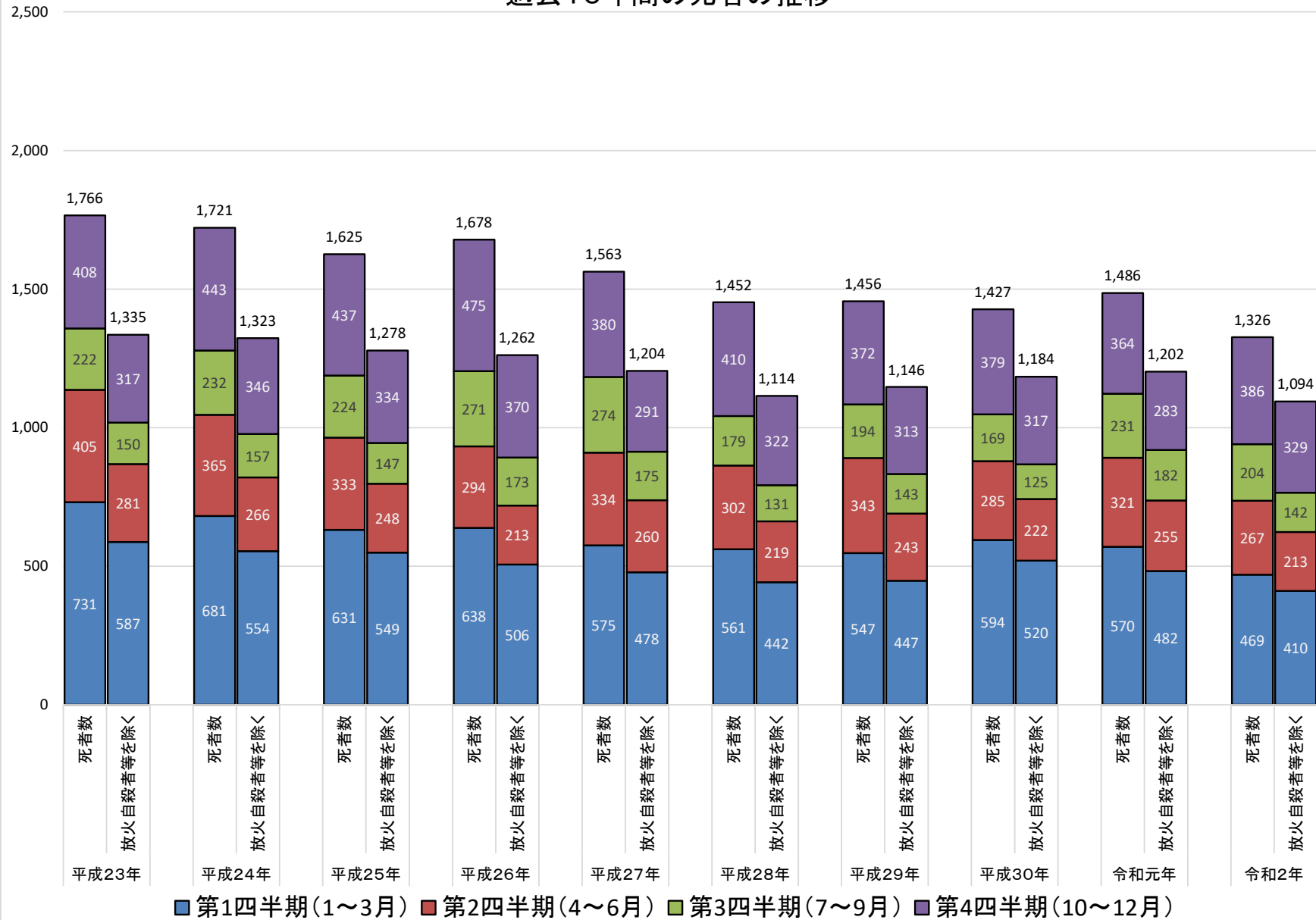
【担当】

消防庁国民保護・防災部防災課防災情報室 竹本 安達 高田
予防課 栗原 佐藤 河野
(代表) TEL 03-5253-5111/FAX 03-5253-7536

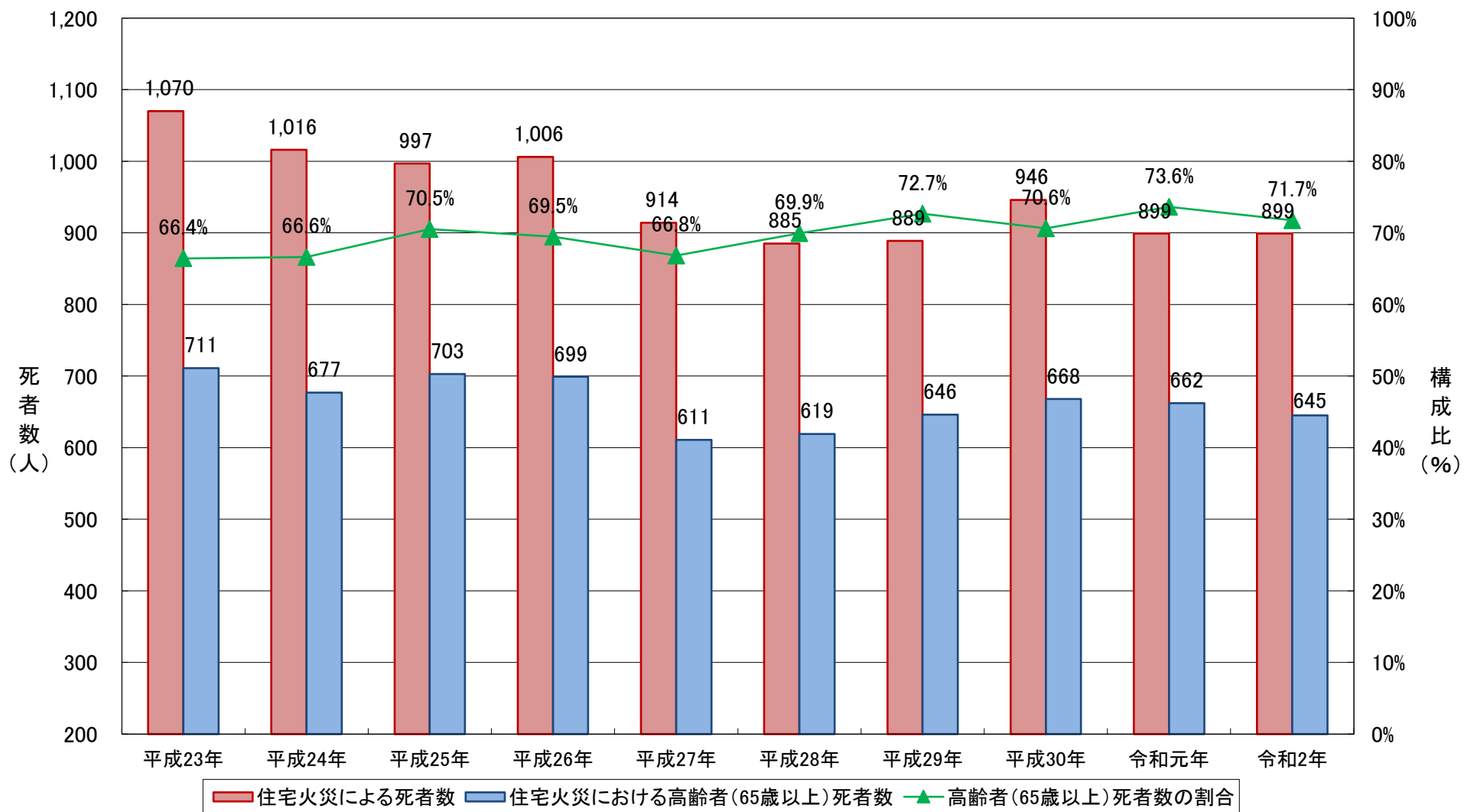
過去10年間の火災の推移



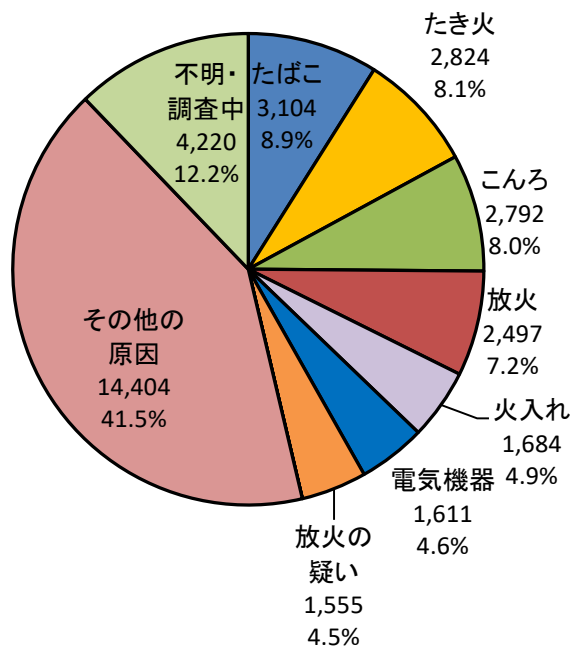
過去10年間の死者の推移



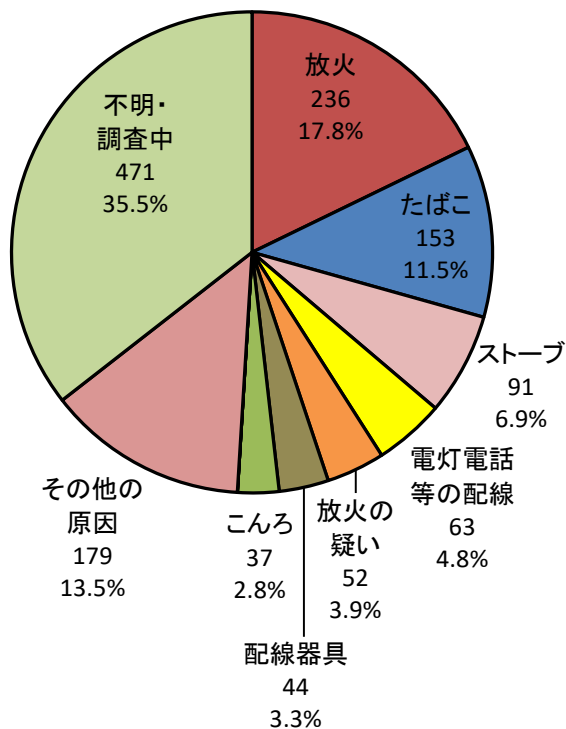
住宅火災における死者数の推移(放火自殺者等を除く。)



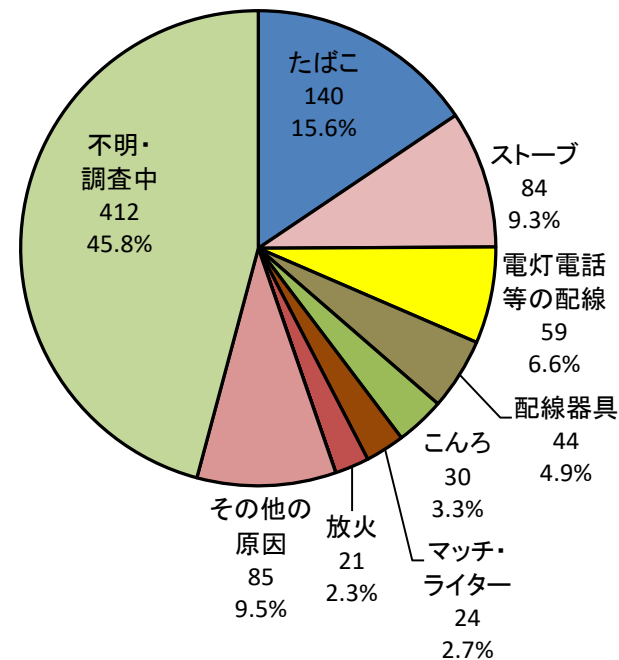
出火原因
全火災34,691件の内訳



全火災の出火原因別死者
1,326人の内訳



住宅火災の出火原因別死者数
(放火自殺者等を除く。)
899人の内訳



令和2年(1~12月)における火災の状況(確定値)